

電子処方箋管理サービスにおける 重複投薬等チェックの概要

令和7年10月 1.5版

厚生労働省医薬局

社会保険診療報酬支払基金

公益社団法人 国民健康保険中央会

改訂履歴

版数	改訂年月日	該当箇所	主な改訂内容
1.0	2022/12/16	全体	初版作成
1.1	2023/7/26	P.20～P.23	「医薬品添付文書に併用禁忌の相手薬が薬効群等で規定されている場合に、一定の考えに基づき相手薬を特定しチェックすることについて」を追加
1.2	2023/12/28	P.3～P.5、P.8～P.9	リフィル処方箋に係る突合対象データの考え方及び服用期間の判定方法について追記。
1.3	2025/1/22	P.3、P.4、P.6、P.7、 P.9、P.12	2025年1月から開始の院内処方対応に伴い、院内処方等情報に係るチェックルールについて追記。
		P.8、P.10、P.11、 P.26、P.27	既存の重複投薬等チェックのチェック仕様について記載を整備
1.4	2025/10/7	P.2～P.16、P.23、 P.31	既存の重複投薬等チェックのチェック仕様について記載を整備
1.5	2025/10/17	P.3～6	重複投薬等チェックの閲覧画面イメージを追加

重複投薬等チェックの概要

意義

- ・医療機関・薬局では、重複投薬等チェック機能を活用することにより、他施設で処方/調剤された薬剤との重複や、併用禁忌の関係にあるかを事前に把握することができます。電子処方箋管理サービスに登録されている情報を用いてチェックしますので、**医療機関・薬局を跨いだ**チェックが可能です。

チェック結果に係る留意事項

- ・重複投薬等チェックのチェック結果はあくまで参考情報であり、処方及び調剤に係る最終的な判断は医師・歯科医師・薬剤師に委ねられます。

種類

- ・重複投薬チェック
同一投与経路・同一成分である医薬品との重複がないかをチェックします。
- ・併用禁忌チェック
添付文書の相互作用項目で「**併用禁忌**」と定義されているものについて、一定の基準を設けてチェックします。

重複投薬等チェックの閲覧画面イメージ（医療機関）

薬剤情報の閲覧同意が得られている場合

number XXXXX

男

コウロウ タロウ

厚労 太郎

平成 5 年 5 月 9 日

B 型

164cm / 60kg

31 歳 5 か月

国保 3 割

X000X-X000X-X

総合内科：医師
電子 次郎

外来

発行形態：電子処方箋

情報提供同意：同意有

カルテ

処方

	番号	診療日	診療科	名称	用量	日 / 回	用法	数量	コメント
1	2024/11/1	内科	アスピリン「ホエイ」	4.5g	1 日 3 回	毎食後	17 日分		
2	2024/3/5	内科	アスピリン「ホエイ」	4.5g	1 日 3 回	毎食後	17 日分		
3	2024/9/20	整形外科	ハルシオン	1錠	1 日 1 回	朝食後	17 日分		
4	2024/2/20	眼科							

#	薬剤名	医療機関名	薬局名	対象薬剤名称	剤形	用法	調剤日	チェック分類	チェックメッセージ

過去の調剤結果

診療・履歴表示

処方取消

重複チェック等

処方登録

#	薬剤名	医療機関名	薬局名	対象薬剤名称	剤形	用法	調剤日	調剤数量	チェック分類	チェックメッセージ
1	アスピリン「ホエイ」	AAクリニック	AB薬局	アスピリン「キキン」	内服	1 日 3 回 朝昼夕食後	2024/10/30	5 日分	重複投薬	同一投与経路で成分が重複しています。
2	アスピリン「ホエイ」	BAクリニック	BB薬局	アスピリン「コウロウ」	内服	1 日 3 回 朝昼夕食後	2024/10/25	10 日分	重複投薬	同一投与経路で成分が重複しています。
3	ハルシオン	CA医院	CB調剤	イトラコナゾール錠50mg	内服	1 日 1 回 食直後	2024/10/28	14 日分	併用禁忌	併用禁忌の可能性のある薬剤があります。添付文書等を確認してください。

処方理由コメント（処方を続ける場合はコメントを入力してください）

☐ すべての処方薬品のチェック結果を確認済み

実際のレイアウトや表示される内容・文言はご使用のシステムによって異なります。
重複投薬等チェックの結果のうち、過去の処方・調剤情報は、患者から薬剤情報の閲覧同意が得られた場合に表示されます。

重複投薬等チェックの閲覧画面イメージ（医療機関）

薬剤情報の閲覧同意が得られていない場合

number XXXXX
男

厚労 太郎

平成 5 年 5 月 9 日
B 型
164cm / 60kg

31 歳 5 か月
国保 3 割
XXXX-XXXX-X

総合内科：医師
電子 次郎
外来

発行形態：電子処方箋 情報提供同意：同意有

番号	診療日	診療科
1	2024/11/1	内科
2	2024/3/5	内科
3	2024/9/20	整形外科
4	2024/2/20	眼科

カルテ	処方				
名称	用量	日/回	用法	数量	コメント
アスピリン「ホエイ」	4.5g	1日3回	毎食後	17日分	
ハルシオン	1錠	1日1回	朝食後	17日分	

#	薬剤名	医療機関名	薬局名	対象薬剤名称	剤形	用法	調剤日	チェック分類	チェックメッセージ

過去の調剤結果 診療・履歴表示 処方取消 重複チェック等 処方登録

#	薬剤名	医療機関名	薬局名	対象薬剤名称	剤形	用法	調剤日	調剤数量	チェック分類	チェックメッセージ
1	アスピリン「ホエイ」								重複投薬	同一投与経路で成分が重複しています。
2	アスピリン「ホエイ」								重複投薬	同一投与経路で成分が重複しています。
3	ハルシオン								併用禁忌	併用禁忌の可能性がある薬剤があります。添付文書等を確認してください。

患者から薬剤情報の閲覧同意が得られていない場合、重複投薬等チェックの結果のうち過去の処方・調剤情報は表示されません。
重複投薬等チェックの後、口頭等で同意を得てカルテ等に記録を残した上で、閲覧する機能（「口頭同意等による重複投薬等チェック結果閲覧機能」）が実装されている場合があります。

処方理由コメント（処方を続ける場合はコメントを入力してください）

☐ すべての処方薬品のチェック結果を確認済み

重複投薬等チェックの閲覧画面イメージ（薬局）

薬剤情報の閲覧同意が得られている場合

処方情報

厚労病院	総合内科	医師：電子 次郎	署名あり	
処方日：2024/11/1				
	薬品	用量	用法	数量
1	アスピリン「ホエイ」	4.5g	1日3回 朝昼夕食後	5日分
	ハルシオン	1錠	1日3回 朝昼夕食後	10日分

参照情報

#	医薬品名称	コメント
1	アスピリン「ホエイ」	重複しているが、すぐに薬が無くなるので問題なし。疑義照会は不要。

#	対象薬品	併用薬医療機関名	併用薬薬局名	併用薬剤名称	剤形	用法	処方・調剤日	調剤数量	チェック分類	チェックメッセージ

重複投薬等チェック

調剤結果登録

#	対象薬品	併用薬医療機関名	併用薬薬局名	併用薬剤名称	剤形	用法	処方・調剤日	調剤数量	チェック分類	チェックメッセージ
1	アスピリン「ホエイ」	AAクリニック	AB薬局	アスピリン「キキン」	内服	1日3回 朝昼夕食後	2024/10/30	5日分	重複投薬	同一投与経路で成分が重複しています。
2	アスピリン「ホエイ」	BAクリニック	BB薬局	アスピリン「コウロウ」	内服	1日3回 朝昼夕食後	2024/10/25	10日分	重複投薬	同一投与経路で成分が重複しています。
3	ハルシオン	CA医院	CB調剤	イトラコナゾール錠 50mg	内服	1日1回 食直後	2024/10/28	14日分	併用禁忌	併用禁忌の可能性がある薬剤があります。添付文書等を確認してください。

処方医へのコメント欄

疑義照会結果記入欄

実際のレイアウトや表示される内容・文言はご使用のシステムによって異なります。
重複投薬等チェックの結果のうち、過去の処方・調剤情報は、患者から薬剤情報の閲覧同意が得られた場合に表示されます。

重複投薬等チェックの閲覧画面イメージ（薬局）

薬剤情報の閲覧同意が得られていない場合

処方情報

厚労病院	総合内科	医師：電子 次郎	署名あり	
処方日：2024/11/1				
	薬品	用量	用法	数量
1	アスピリン「ホエイ」	4.5g	1日3回 朝昼夕食後	5日分
	ハルシオン	1錠	1日3回 朝昼夕食後	10日分

参照情報

#	医薬品名称	コメント
1	アスピリン「ホエイ」	重複しているが、すぐに薬が無くなるので問題なし。疑義照会は不要。

#	対象薬品	併用薬医療機関名	併用薬薬局名	併用薬剤名称	剤形	用法	処方・調剤日	調剤数量	チェック分類	チェックメッセージ

重複投薬等チェック

調剤結果登録

#	対象薬品	併用薬医療機関名	併用薬薬局名	併用薬剤名称	剤形	用法	処方・調剤日	調剤数量	チェック分類	チェックメッセージ
1	アスピリン「ホエイ」								重複投薬	同一投与経路で成分が重複しています。
2	アスピリン「ホエイ」	患者から薬剤情報の閲覧同意が得られていない場合、重複投薬等チェックの結果のうち過去の処方・調剤情報は表示されません。 重複投薬等チェックの後、口頭等で同意を得て薬歴システム等に記録を残した上で、閲覧する機能（「口頭同意等による重複投薬等チェック結果閲覧機能」）が実装されている場合があります。							重複投薬	同一投与経路で成分が重複しています。
3	ハルシオン								併用禁忌	併用禁忌の可能性がある薬剤があります。添付文書等を確認してください。

処方医へのコメント欄

疑義照会結果記入欄

実際のレイアウトや表示される内容・文言はご使用のシステムによって異なります。

重複投薬等チェックの概要

実施タイミング

- ・ 重複投薬等チェックの実施タイミングについては以下のようにしています。

医療機関（院外処方）

- ： 処方内容の確定までの任意のタイミングで可能。（複数回可）
 - ※ 自医療機関内で過去に処方された薬剤はチェックの対象外（希望により対象とすることも可）

医療機関（院内処方）

- ： 院内処方等情報の確定までの任意のタイミングで可能。（複数回可）
 - ※ 自医療機関内で過去に処方された薬剤はチェックの対象外（希望により対象とすることも可）
- 入院中、退院時の患者への処方等について重複投薬等チェックの実施は任意

薬局

- ： 電子処方箋、又は引換番号が印字された紙処方箋の受付時に自動で実行。
 - 加えて、調剤内容の確定までに必要に応じて任意のタイミングで可能。（複数回可）
 - ※ 引換番号が印字された紙処方箋を、引換番号を入力して受け付けた場合に自動で実行されます。
 - 引換番号が印字された紙処方箋を患者が持参した場合には、引換番号を入力して処方情報を引き出すようお願いいたします。

重複投薬等チェックの概要

対象データ

- 医療機関においては処方内容（院内処方を含む）、薬局においては調剤内容を、過去に電子処方箋管理サービスに登録された、以下に示す「突合対象データ」と突合します。

施設	チェック対象 (突合するデータ)	突合対象データ（突合される、過去に登録済みの処方・調剤情報）
医療機関	処方内容 (院内処方を含む)	いずれも電子処方箋管理サービスに登録・有効な状態の情報を対象とします <ul style="list-style-type: none">・調剤済みになっていない処方情報 …対応する調剤情報が登録された時点で突合対象外となります・院内処方等情報 …入院患者に対する薬剤の処方・調剤・投薬された情報は突合対象外となります。また、チェック時において服用していない（チェック実施日よりも未来の処方等年月日が入力されている）薬剤も突合対象外となります。・調剤情報 リフィル処方箋 に関しては以下のとおりです。（次ページのイメージを掲載） <ul style="list-style-type: none">・リフィル処方箋の処方情報であって1回目の調剤情報が登録されていないもの …1回目の調剤情報が登録された時点で突合対象外となります・リフィル処方箋に基づく調剤情報 …使用回数を考慮して突合対象とする期間を設定しています。
薬局	調剤内容	

本資料では、

○処方・調剤しようとする情報を「突合するデータ」

○突合される、過去に登録済みの処方・調剤情報を「突合対象データ」としています。

重複投薬等チェックの概要

- ・ 突合対象データについて
 - リフィル処方箋以外

凡例 突合するデータ

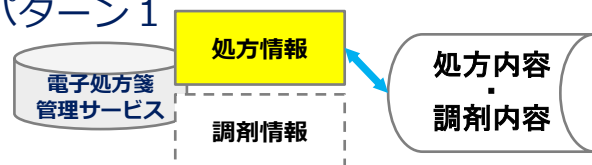
突合対象データ

(未登録)

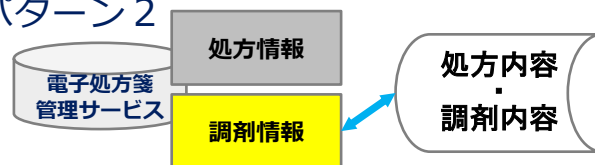
登録あり

突合対象外

パターン1



パターン2



パターン3



- リフィル処方箋

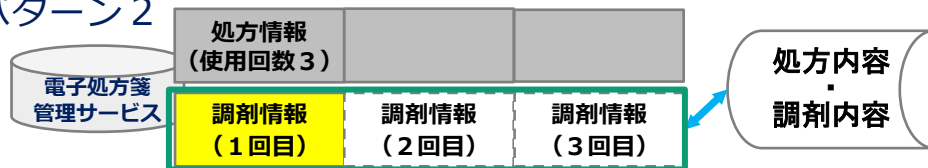
パターン1



パターン4



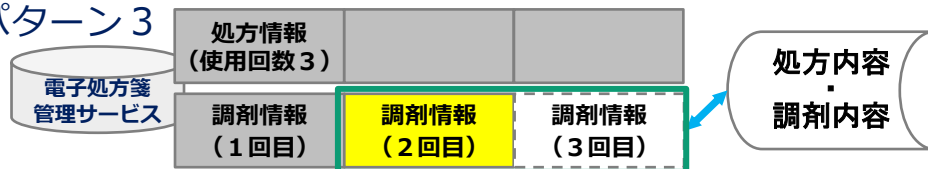
パターン2



パターン5



パターン3



使用回数を考慮して
突合対象とする範囲

対象データと服用期間の考え方

対象データ

- ・ **電子処方箋管理サービスに登録された処方・調剤情報を対象データとします。**
(原則、処方・調剤情報の保存期間(100日間)が過ぎたデータについては使用されません。リフィル処方の場合であって服用期間が100日を超えるものは使用します。) レセプト由来の薬剤情報は重複投薬等チェックに使用しません。
- ・ **処方日又は調剤日において服用中とみなされる医薬品**を重複投薬等チェック対象とします。
- ・ 同じ医療機関から発行された処方箋、院内処方等情報のデータ(処方・調剤情報)は重複投薬等チェックの対象外としています。ただし、重複投薬等チェックの対象となるよう設定することも可能です。
- ・ 薬局の処方箋受付時に行われる重複投薬等チェックにおいては、同じ医療機関から発行された処方箋のデータ(処方・調剤情報(別薬局分含む))をチェックの対象とすることはできません。薬局においてチェックの対象としたい場合は、対象となるよう設定を行った上で、調剤内容の確定までに任意のタイミングでチェックを実施する必要があります。

※上記2点については、次頁以降の「同一処方箋発行医療機関チェックフラグについて」を参照ください。

- ・ **医療材料及びダミーコードで記録された医薬品**は重複投薬等チェック対象外とします。
※ダミーコードとは、医薬品等の名称を自由記載するために2025年8月27日まで記録ができたコードを指します。

対象データと服用期間の考え方

対象データ（同一処方箋発行医療機関チェックフラグについて）

【医療機関の場合】

- ・「同一処方箋発行医療機関のデータを対象としない」「対象とする」を選択することが可能です。
- ・「対象としない」場合、重複投薬等チェックを実行すると、自施設から発行された処方箋（処方情報）及び当該施設の医療機関コード※が記録された調剤情報とは、突合されません。
- ・「同一処方箋発行医療機関のデータを対象とする」設定も可能です。
この場合、重複投薬等チェックを実行すると、自施設から発行された処方箋（処方情報）及び当該施設の医療機関コード※が記録された調剤情報とも、突合されます。

※医療機関コード（7桁）に加え、都道府県番号（2桁）、点数表コード（医科・歯科）の合計10桁が一致した場合に、「同一処方箋発行医療機関」として判定しています。したがって、医科歯科併設の医療機関であっても、医科・歯科で別の医療機関として判定されます。なお、医療機関等向け総合ポータルサイトにて承継の申請・処理が完了した場合、承継を考慮したチェックが実行されます。

対象データと服用期間の考え方

対象データ（同一処方箋発行医療機関チェックフラグについて）

【薬局の場合】

- ・自動で重複投薬等チェックが実行される場合には「同一処方箋発行医療機関のデータを対象としない」ようになっています。
この場合、重複投薬等チェックを実行すると、チェックを行った処方箋の発行元と同じ医療機関コード※が記録された処方情報・調剤情報とは、突合されません。同じ医療機関から発行されたものであれば、別の薬局で調剤された場合でも突合されません。
- ・「同一処方箋発行医療機関のデータを対象とする」設定も可能です。
この場合、重複投薬等チェックを実行すると、チェックを行った処方箋の発行元と同じ医療機関コード※が記録された処方箋（処方情報）及び当該施設の医療機関コード※が記録された調剤情報とも、突合されます。
ただし、調剤情報に適切に処方箋IDが設定されている場合（処方箋IDが一致する場合）、同一処方箋の処方情報と調剤情報はチェックがかからないような仕様としています。

例）引換番号の印字された紙処方箋について、引換番号を用いて受付をし、調剤結果について重複投薬等チェックを実行した場合、同一処方箋に基づくものと見なされチェックがかかりません

※医療機関コード（7桁）に加え、都道府県番号（2桁）、点数表コード（医科・歯科）の合計10桁が一致した場合に、「同一処方箋発行医療機関」として判定しています。したがって、医科歯科併設の医療機関であっても、医科・歯科で別の医療機関として判定されます。なお、医療機関等向け総合ポータルサイトにて承継の申請・処理が完了した場合、承継を考慮したチェックが実行されます。

※処方箋IDとは、電子処方箋管理サービス内の電子処方箋ファイル等を管理するため、一意に採番されるIDのことです。

対象データと服用期間の考え方

服用期間の考え方

- ・服用期間は剤形区分（内服・頓服・外用 等）を用いて判定します。
 - ★服用期間が判定可能な剤形（内服など）は、調剤数量を利用
 - ★隔日服用のような情報はシステムで判断できないため、調剤数量の値そのままに服用期間を算出
 - ★服用期間が判定不可能な剤形（頓服、外用）は一律14日間を仮の服用期間とみなす

※ 詳しくは電子処方箋管理サービスの技術解説書中
「2.2.5 共通補足 (7)重複投薬等チェック ○重複投薬等チェックのロジックについて」
を参照ください。

★院内処方等情報における外来患者、退院する患者に対して、院内で患者に投薬まで行った薬剤
については、一律 1 日を仮の服用期間とみなす。

※ 詳しくは電子処方箋管理サービスの技術解説書中
「2.2.1 医療機関における電子カルテシステム等の改修 b. 外来患者に対する薬剤の処方・調剤・投薬
【（パターン b）登録した投薬情報等の電子処方箋管理サービスでの取り扱いについて】」
「2.2.1医療機関における電子カルテシステム等の改修 c. 退院する患者に対する薬剤の処方・調剤・投薬
【（パターン c）登録した投薬情報等の電子処方箋管理サービスでの取り扱いについて】」
を参照ください。

（参考）電子処方箋管理サービスの導入に関するシステムベンダ向け技術解説書
<https://www.mhlw.go.jp/content/001046588.pdf>

対象データと服用期間の考え方

服用期間の考え方

服用終了日とみなす日以前（服用期間中と判定される間）にチェックが行われた場合に、重複投薬等チェック対象となります。

突合対象データ	剤形	服用期間判定	調剤数量	服用終了日とみなす日
処方情報	内服	調剤数量を利用	N	処方日から（N－1）日後
	頓服	一律14日間を仮の服用期間とみなす		処方日から13日後
	外用			
	内服滴剤	調剤数量を利用		処方日から（N－1）日後
	注射			
調剤情報	内服	調剤数量を利用		調剤日から（N－1）日後
	頓服	一律14日間を仮の服用期間とみなす		調剤日から13日後
	外用			
	内服滴剤	調剤数量を利用		調剤日から（N－1）日後
	注射			

対象データと服用期間の考え方

服用期間の考え方

突合対象データ	院内処方区分	剤形	服用期間判定	調剤数量	服用終了日とみなす日
院内処方等情報	患者が持ち帰る場合 (3 , 4)	内服	調剤数量を利用	N	処方・調剤・投薬を実施した日 (処方等年月日) から (N - 1) 日後
		頓服	一律14日間を仮の 服用期間とみなす		処方等年月日から13日後
		外用			
		内服滴剤	調剤数量を利用		処方等年月日から (N - 1) 日後
		注射			
	院内で投薬投与 (1 , 2)	内服	一律1日を仮の 服用期間とみなす	N	処方等年月日当日
		頓服			
		外用			
		内服滴剤			
		注射			

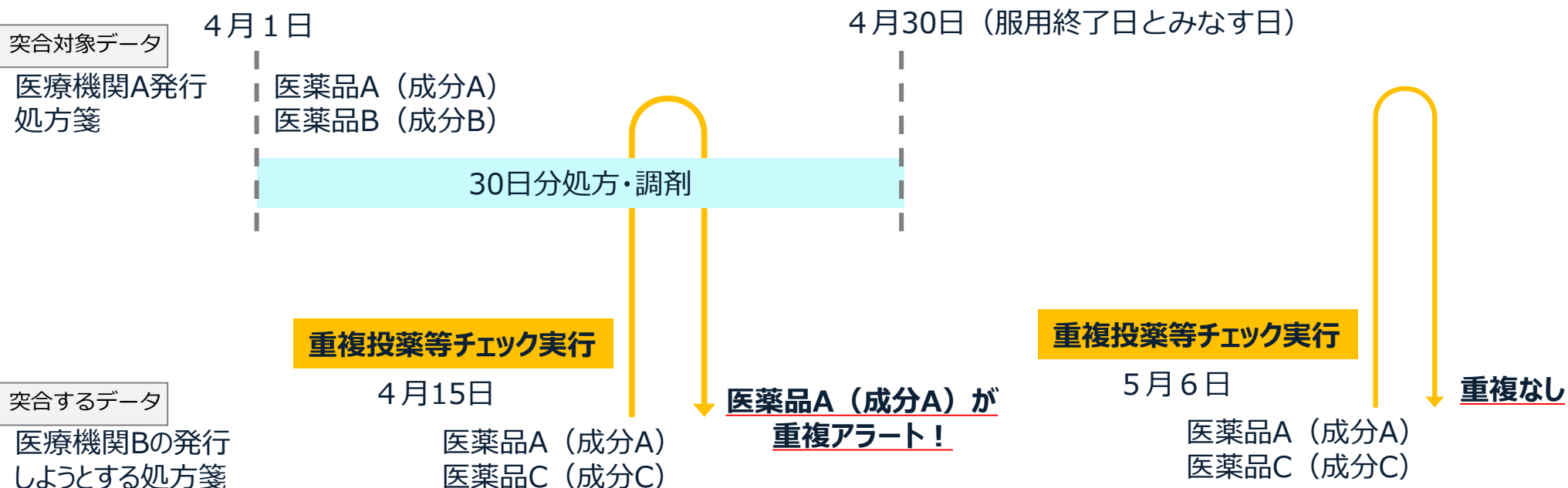
院内処方区分は、以下のとおりです。「5：入院時処方」の場合は、突合対象データとはなりません。

- 1：外来院内処方（院内で投薬投与）
- 2：退院時院内処方（院内で投薬投与）
- 3：外来院内処方（患者が持ち帰る場合）
- 4：退院時院内処方（患者が持ち帰る場合）
- 5：入院時処方

対象データと服用期間の考え方

服用期間の考え方

1 突合対象データの剤形が**内服・内服滴剤・注射**の場合 (例)

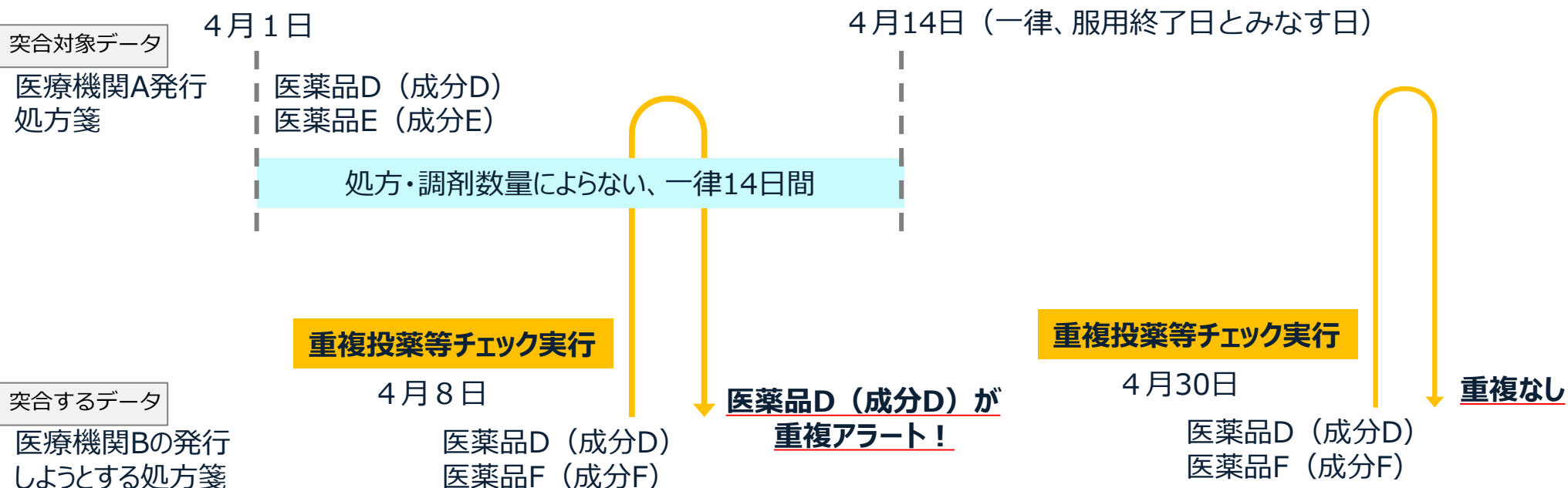


リフィル処方の場合は、その総使用回数を考慮して服用期間を判定します。

対象データと服用期間の考え方

服用期間の考え方

2 突合対象データの剤形が頓服・外用の場合 (例)



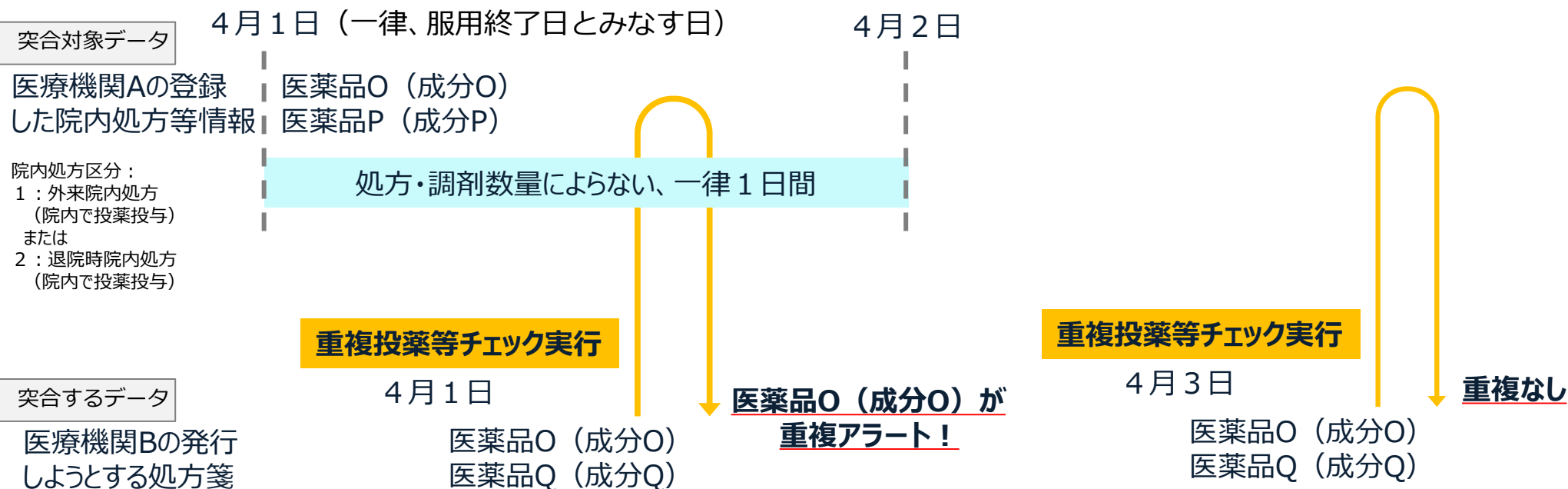
リフィル処方の場合は、その総使用回数を考慮して服用期間を判定します。

対象データと服用期間の考え方

服用期間の考え方

3 突合対象データが院内処方等情報のうち、外来又は退院時の院内処方で、 院内で投薬投与まで行った薬剤のものであった場合

(例)

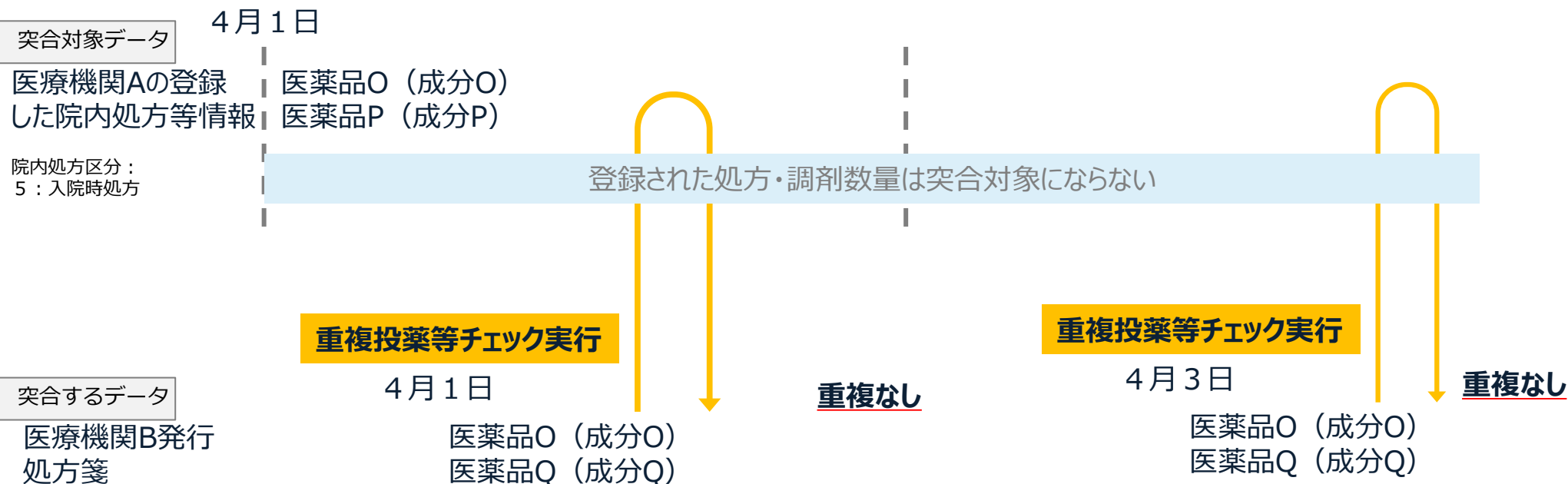


なお、突合対象データが院内処方等情報で、院内処方区分が「患者が持ち帰る場合」（院内処方区分が3又は4の場合）は、処方情報・調剤情報と同様に、剤形に応じた判定となります。

対象データと服用期間の考え方

服用期間の考え方

4 突合対象データが院内処方等情報であって、入院時処方の場合 (例)

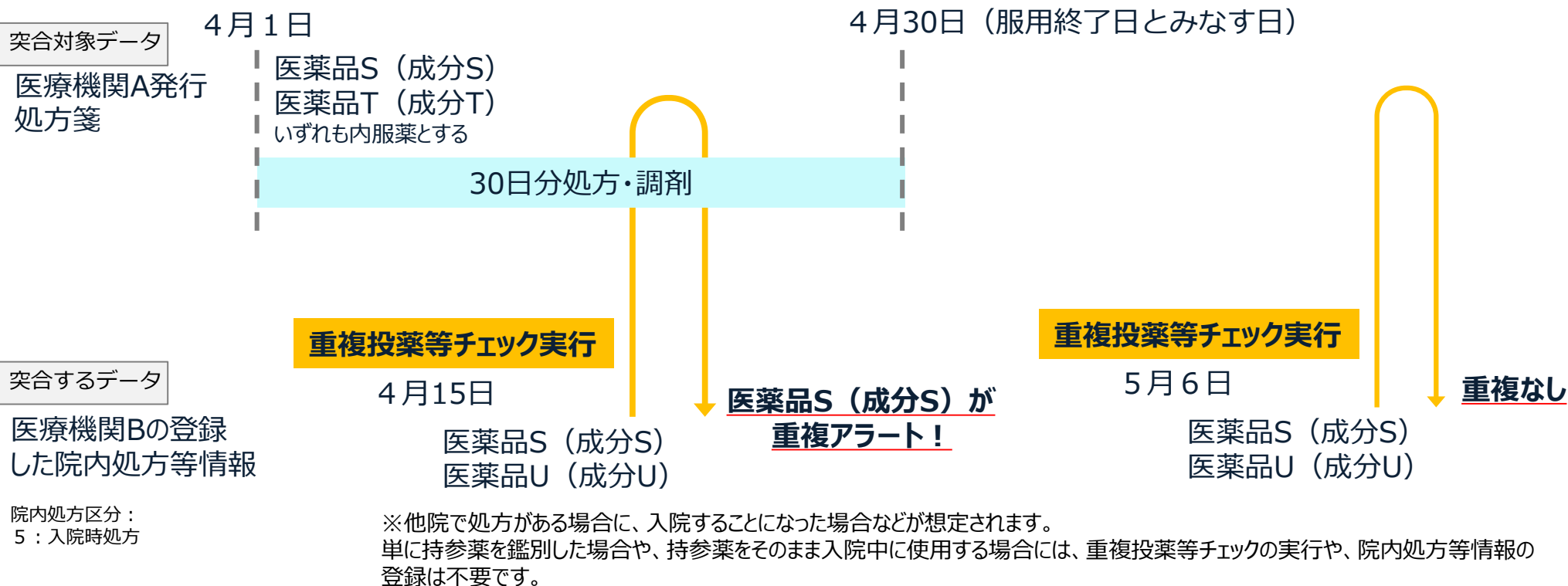


入院中は服用まで完了していること、入院中に他医療機関から処方箋が発行される例は少なく医療機関間で必要な情報共有が通常行われることから、重複投薬等チェックの突合対象データにはなりません。なお、過去の薬剤情報等を閲覧する際には、入院中に登録されたデータについても閲覧対象に含まれます。

対象データと服用期間の考え方

服用期間の考え方

5 突合するデータが院内処方等情報であって、入院時処方の場合 (例)



突合するデータが、院内処方区分が入院時処方であっても、任意ですが、重複投薬等チェックをかけることができます。

重複投薬チェックについて

投与経路の考え方

- ・ 投与経路については下記分類とし、同一項目に分類される製剤を同一投与経路とします。

投与経路
内用薬
注射薬
外用薬（塗布薬と貼付薬）
経皮吸収剤（経皮吸収の全身作用薬）
吸入剤
眼科用剤
耳鼻科用剤、全身作用の点鼻剤
坐剤（注腸剤を含む）
腔剤
口腔用剤（含嗽剤・口腔疾患用抗炎症剤）
歯科用（歯科用は重複投薬チェック対象外）

- ※ 上記以外の特殊な投与経路、複数の投与経路で投与できる薬剤は、個別に投与経路を判断しています。

成分の考え方

1 同一成分について

次の場合を同一成分と判断します。

1) 薬価基準成分名の記載から成分以外の要素を除いて同一となる場合

- 例
- ・ pH 4 処理酸性人免疫グロブリン（皮下注射）
 - ・ pH 4 処理酸性人免疫グロブリン

2) 薬価基準成分名で後続とされている場合（バイオ後続品）

- 例
- ・ **エポエチンアルファ**（遺伝子組換え）
 - ・ エポエチンカッパ（遺伝子組換え）〔**エポエチンアルファ**後続1〕

※ バイオ後続品（バイオシミラー）：日本で既に新薬として承認された先行バイオ医薬品と同等/同質の品質、安全性及び有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者により開発された医薬品

成分の考え方

1 同一成分について

次の場合を同一成分と判断します。

3) 塩、水和物等の違いに関しては同一成分と判断

例

- ・安息香酸ナトリウムカフェイン
- ・カフェイン水和物
- ・無水カフェイン

※ 官能基による違いや活性成分が異なる誘導体は原則として別成分と判断
「エフェドリン」と「メチルエフェドリン」
「エストラジオール」と「エチニルエストラジオール」
「チアミン」と「フルスルチアミン」 など

成分の考え方

1 同一成分について

次の場合を同一成分と判断します。

- 4) 添付文書の成分記載で活性成分が同一と判断される場合、又は添付文書の記載内容から成分が同等と判断できる場合

例① 含有成分の記載が同じ場合

「ドロスピレノン・エチニルエストラジオール ベータデクス製剤」における
「エチニルエストラジオール ベータデクス」に関する添付文書の成分欄

1錠中ドロスピレノン3mg及びエチニルエストラジオール ベータデクスと
して**エチニルエストラジオール0.020mg含有**

これにより「エチニルエストラジオール ベータデクス」は「エチニルエストラジオール」と同一成分としています。

成分の考え方

1 同一成分について

次の場合を同一成分と判断します。

- 4) 添付文書の成分記載で活性成分が同一と判断される場合、又は添付文書の記載内容から成分が同等と判断できる場合

例② 光学異性体（ラセミ体及びS体又はR体）

「ゾピクロン」と「エスゾピクロン」は一部の成分が同じと判断

ゾピクロンはラセミ体（S体＋R体）、エスゾピクロンはS体のみであり、成分として重複していると判断しています。

（添付文書の記載例）

本剤は、ラセミ体であるゾピクロンの一方のエナンチオマー（（S）-エナンチオマー）であり、ゾピクロンの薬理活性の大部分を有する製剤である。

- ※ ラセミ体：キラル化合物の2種類の鏡像異性体（エナンチオマー）が等量存在することにより旋光性を示さなくなった状態の化合物

成分の考え方

1 同一成分について

次の場合を同一成分と判断します。

- 4) 添付文書の成分記載で活性成分が同一と判断される場合、又は添付文書の記載内容から成分が同等と判断できる場合

例③ プロドラッグとその活性物質

下記の2つはテノホビルのプロドラッグであり、テノホビル単剤製剤および下記の2つの製剤は同一としています。

- ・テノホビル ジソプロキシルフマル酸塩
- ・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩

※ プロドラッグ：体内に入ってから疾患部位（患部）に到達するまでの間に、薬効成分が分解されないように化学構造を変換した薬

成分の考え方

1 同一成分について

次の場合を同一成分と判断します。

- 4) 添付文書の成分記載で活性成分が同一と判断される場合、又は添付文書の記載内容から成分が同等と判断できる場合

例④ 薬価基準成分名が異なっても、成分又は配合成分が同じである場合

下記は、同一の8成分を含有するので、同一成分としています。

- ・ 八味地黄丸
- ・ 八味丸

なお、漢方製剤の成分である生薬は重複投薬チェック対象外としています。
(P.30「対象外」を参照)

成分の考え方

1 同一成分について

次の場合を同一成分と判断します。

- 5) 配合剤で薬価基準成分名が総称で記載されている場合、総称が同じ場合は同一成分と判断

例 配合剤総称（同じ総称の製剤は同一）

- ・ 非ピリン系感冒剤
- ・ ピラゾロン系解熱鎮痛消炎配合剤
- ・ 鎮咳去たん配合剤
- ・ 鎮咳配合剤
- ・ ジアスターゼ・生薬配合剤

- ※ 配合剤中の個々の配合成分でも重複が検出可能ですが、単剤での製剤が存在しない成分は重複投薬チェック対象外とします。

重複投薬チェックについて

成分の考え方

2 配合剤について

医薬品単位の成分コード（製剤成分コード）と成分単位の成分コード（構成成分コード）を設定することで、配合剤における薬品単位、各成分単位での重複投薬チェックをします。

例

薬品名	製剤成分名	構成成分名
メタクト配合錠H D	ピオグリタゾン塩酸塩・メトホルミン塩酸塩－内用	ピオグリタゾン塩酸塩－内用
		メトホルミン塩酸塩－内用
メタクト配合錠L D	ピオグリタゾン塩酸塩・メトホルミン塩酸塩－内用	ピオグリタゾン塩酸塩－内用
		メトホルミン塩酸塩－内用

薬品名	製剤成分名	構成成分名
アクトス錠15	ピオグリタゾン塩酸塩－内用	
メタクト配合錠L D	ピオグリタゾン塩酸塩・メトホルミン塩酸塩－内用	ピオグリタゾン塩酸塩－内用
		メトホルミン塩酸塩－内用

重複投薬チェックについて

対象外

- ・ 下記製剤については重複投薬チェックの対象外とします。

対象外製剤	例
賦形剤、軟膏基剤、溶解液、精製水等	乳糖、ワセリン、精製水、矯味剤
補液・輸液、輸液に用いる電解質製剤等（注射剤）	補液、糖類、電解質補正液、体外循環用凝固阻止剤
透析用製剤	人工透析液、腹膜透析用剤
血液成分製剤	輸血用製剤、赤血球濃厚液
診断用医薬品（検査前処理薬を含む）	造影剤、腸管洗浄薬
生薬	カンゾウ、マオウ等、全生薬
消毒用製剤	消毒用エタノール、クレゾール石ケン
全身麻酔、局所麻酔剤	ハロタン、プロポフォール、キシロカイン
歯科用製剤	歯科用製剤全体
予防製剤	ワクチン、トキシイド
手術・処置用製剤（術前処置も含む）	組織接着剤、眼灌流剤、溶解液
治療用アレルギー製剤（各種抽出物）	薬価基準成分名が「各種抽出物」のアレルギー製剤
再生医療等製品	再生医療等製品に分類される全製剤

併用禁忌チェックについて

基準

- ・添付文書の相互作用項目で「併用禁忌」と定義されているものを併用禁忌チェック対象とします。
- ・同一成分で先発医薬品/準先発医薬品と後発医薬品の関係がある場合、先発医薬品/準先発医薬品の添付文書のデータを基準とし、後発医薬品はそれと同様の内容で併用禁忌チェックを行います。
- ・同一投与経路・同一成分で禁忌が同じと考えられる場合、原則として医薬品コードが最も若い品目の添付文書のデータを基準とします。それらの禁忌が同じと考えられる製剤の中でも禁忌に違いがある場合は、禁忌が多い製剤の添付文書のデータを基準とします。
- ・対象は保険適用の医薬品のみとします。
- ・添付文書の併用禁忌薬剤欄が薬効群で記載され、対象成分が「等」付きで記載されている場合は、原則として記載された薬効群に該当するすべての薬剤を併用禁忌チェック対象とします。「等」がなく、成分が列挙されている場合は、原則として列挙された成分のみを対象とします。
- ・添付文書の併用禁忌薬剤欄に記載がある成分名を含む配合剤も併用禁忌チェック対象とします。

併用禁忌チェックについて

- 添付文書の併用禁忌薬剤欄に成分が明記されておらず薬効群等で記載されている場合であっても、一定の考えに基づき相手薬を特定しチェックします。

例) 医薬品Aの併用禁忌が「三環系抗うつ剤」と記載されている場合、下記のパターン①、②ともにチェック対象です。

パターン①

医薬品A添付文書	医薬品B添付文書
併用禁忌:三環系抗うつ剤は禁忌 成分 :成分A	併用禁忌:成分Aは禁忌 成分 :成分B
	三環系抗うつ剤と判断できる薬剤

パターン②

医薬品A添付文書	医薬品B添付文書
併用禁忌:三環系抗うつ剤は禁忌 成分 :成分A	併用禁忌:(記載なし) 成分 :成分B
	三環系抗うつ剤と判断できる薬剤

併用禁忌チェックについて

薬効群名等で示されている場合の具体例

項番	添付文書中の薬効群での記載	併用禁忌相手薬の考え方
1	イミノジベンジル系薬剤	いずれかの医薬品の添付文書内に「イミノジベンジル系薬剤」として明記されている薬剤。
2	フェノチアジン系薬剤	類薬選定資料に「フェノチアジン系」の記載がある薬剤。
3	ブチロフェノン系薬剤	類薬選定資料に「ブチロフェノン系」の記載がある薬剤。
4	セロトニン・ドパミン拮抗薬	類薬選定資料に「抗ドパミン作用／抗セロトニン作用」の記載がある薬剤。
5	三環系抗うつ剤	類薬選定資料の抗うつ剤で「三環系」の記載がある薬剤。
6	硝酸薬およびNO供与薬	いずれかの医薬品の添付文書内にNOを供与する薬剤と明記されている薬剤。
7	アンジオテンシン変換酵素阻害剤	類薬選定資料に「ACE阻害作用」の記載がある薬剤。
8	アンジオテンシンII受容体拮抗剤	類薬選定資料に「アンジオテンシンⅡ受容体拮抗作用」の記載がある薬剤、およびその配合剤。
9	カテコールアミン製剤	類薬選定資料に「カテコラミン類」「カテコールアミン（系）」の記載がある薬剤。
10	ハロゲン含有吸入麻酔剤	類薬選定資料に「ハロゲン化エーテル系」の記載がある薬剤、および薬効分類1112（ハロゲン炭化水素製剤）。
11	クラスIA抗不整脈薬	不整脈薬物治療ガイドライン（日本循環器学会）に記載されているVaughan Williams分類に基づく。

併用禁忌チェックについて

項番	添付文書中の薬効群での記載	併用禁忌相手薬の考え方
12	クラスⅢ抗不整脈薬	不整脈薬物治療ガイドライン（日本循環器学会）に記載されているVaughan Williams分類に基づく。
13	ビタミンA製剤	薬効分類311で添付文書にビタミンA剤またはビタミンA様作用を持つとの記載がある薬剤。
14	モノアミン酸化酵素阻害剤	類薬選定資料に「B型モノアミン酸化酵素阻害作用」の記載がある薬剤。ただし、MAO阻害作用が弱いゾニサミドは除外した。
15	生ワクチン	添付文書から生ワクチンとわかるもの。
16	プロピオン酸系非ステロイド性消炎鎮痛剤	類薬選定資料に「プロピオン酸系」の記載がある薬剤および、添付文書でプロピオン酸系に属すると明記されている薬剤。
17	テトラサイクリン系抗生物質	薬効分類6152の薬剤。および日本薬局方テトラサイクリン塩酸塩製剤。
18	フェニル酢酸系非ステロイド性消炎鎮痛剤	類薬選定資料に「フェニル酢酸系」の記載がある薬剤および、添付文書でフェニル酢酸系に属すると明記されている薬剤。
19	QT延長を起こすことが知られている薬剤	いずれかの医薬品の添付文書内に「QT延長を起こすことが知られている薬剤」として明記されている薬剤。
20	骨髄抑制を起こす可能性のある薬剤	添付文書の重大な副作用欄または重要な基本的注意に「骨髄抑制」、「骨髄機能低下」等の記載がある薬剤。または併用禁忌欄に骨髄抑制作用が増強されるという記載がある場合。
21	ホルモン剤	ホルモン剤（薬効分類24）に分類されている抗ホルモン剤を除く成分で、かつ、重大な副作用に「血栓」を含む薬剤。

併用禁忌チェックについて

項番	添付文書中の薬効群での記載	併用禁忌相手薬の考え方
22	アルコールを含む医薬品	添付文書の組成欄等にエタノール含有の記載があり、ジスルフィラム等が併用禁忌である薬剤。内用チンキ剤のように、明確な場合は併用禁忌にジスルフィラム等の記載がなくても対象とする。
23	アドレナリン作動薬	類薬選定資料に「 β 受容体刺激作用」、「 $\beta 2$ 受容体刺激作用」等、アドレナリン作動薬と判断できる記載がある薬剤、およびその配合剤。ただし、局所性である「選択的 $\beta 3$ アドレナリン受容体刺激作用」、「子宮筋 $\beta 2$ 受容体刺激作用」は除外した。
24	尿をアルカリ性にする薬剤	炭酸水素ナトリウム(重曹)含有製剤でヘキサミンを併用禁忌としている薬剤。
25	α 遮断薬	類薬選定資料に「 $\alpha 1$ 受容体遮断作用」、「 α 受容体遮断作用」と明記されている薬剤を対象とする。

表中の「類薬選定資料」とは「類似薬選定のための薬効分類」（改訂第15版）のことを指す。

併用禁忌チェックについて

局所作用薬の対応

- 添付文書の併用禁忌薬剤欄の記載が成分名の場合、該当成分のすべての投与経路の製剤が対象と判断します。しかし、局所作用薬（局所投与薬剤）の場合には、吸収されずに併用の問題がない場合があります。そのため、局所作用薬については、相手の薬剤を禁忌としている場合（双方向禁忌）を除き、対象外とします。
- 局所作用薬とは次の投与経路の薬剤です。

投与経路
外用薬（塗布薬と貼付薬）
眼科用剤
耳鼻科用剤
腔剤
口腔用剤（含嗽剤・口腔疾患用抗炎症剤）
歯科用